

★ 会社員の半数以上が「昭和的な働き方を強いられている」と感じているようです！

ビジネスチャット「LINE WORKS」を提供するワークスマイルジャパン株式会社は、7月24日に「昭和的な働き方についての意識調査」の結果を発表しました。調査は今年の6月にインターネットで実施され、全国を対象とした20～59歳の正社員624人（男427人、女197人）から回答を得たもので、その結果は以下のとおりです。

- ① あなたの勤める会社やその働き方は“昭和的？”それとも“イマドキ？”
  - ・昭和的だと感じる割合は、全体平均では54.6%と半数を超え、20代が52.6%、30代60.9%、40代47.4%、50代57.7%とすべての年代で最多の回答でした
  - ※30代が最も多いのは、自分たちの将来に向けた改革意識の高さの表れか？
  
- ② 昭和的な働き方のイメージは？
  - ・1位「休暇が取りづらい」56.3%、2位「働く時間が長い」47.9%、3位「残業が評価される」43.3%
  - ※物質的な豊かさを求め、プライベートな時間を顧みずにながむしやりに働いた結果か？
  
- ②' イマドキな働き方のイメージは？
  - ・1位「休暇が取りやすい」54.3%、2位「仕事が終わればすぐに帰ってよい雰囲気がある」45.5%、3位「残業時間と評価は関係ない」43.3%
  - ※物質的な豊かさがほぼ充足されたこと、様々な競争で疲弊しきってしまったことからプライベートな時間を大切に、精神的な豊かさを求めている結果か？
  
- ③ 昭和的な働き方について「良いと思う」か「悪いと思う」か？
  - ・「悪いと思う」と回答した割合は、全体平均で30.1%、年代別では20代が45.5%と突出して多く、30代31.5%、40代22.5%、50代21.2%という結果になりました
  - ※「どちらでもない」という回答が全体平均で51.8%に達しており、昭和的な働き方にも一定割合の評価が存在しているということか？
  
- ④ 昭和的な働き方の悪い点は？
  - ・1位「慢性的に残業がある」55.8%、2位「業務の進め方が非効率的」47.6%、3位「IT利活用が進んでいない」42.8%
  - ※IT利活用を含めた業務の効率化が進まず、残業が慢性的に発生している。一方、残業が会社への貢献度として評価される風潮にあり、不必要な残業がなくなる
  
- ⑤ 昭和的な働き方の良い点は？
  - ・1位「年功序列で昇進、昇給できる」45.8%、2位「残業代が稼ぎやすい」32.2%、3位「社員同士の仲がいい」31.7%
  - ※いつの時代でも、働く側としては、安定した収入と安心して働ける職場環境を望んでいるということか？

今年の夏の甲子園は第100回という記念大会に加え、決勝戦が「昭和の野球 VS 平成の野球」という構図で、近年まれに見るほど大いに盛り上がりました。昭和の野球のキーワードは「エースの先発完投」「バント野球」「地元出身選手」、かたや平成の野球のキーワードは「複数投手での継投」「バントを多用しない攻撃野球」「全国から選手をスカウト」でしょうか。「こっちが良くて、あっちがダメ」というのではなく、それぞれに良さがあり、それらを選択するのは学校や指導者であるということに改めて感じさせられました。そのような意味では会社の経営も同様で、従業員の「働きやすさ」と「働きがい」の向上のために何ができるかという視点で、従業員が求めている「昭和の良さ」も幾分残しながら、バランスよく「働き方改革」を進めていくことが大事なのではないかと感じます。(工藤克己)